

いずみで暮らせて

約230世帯が住む和泉地区。
その内訳をみると、約3割が
Iターン、Uターンという驚きの数です。
都会から和泉に移住を決めた2組に
和泉を選んだ理由をもうかがいました。

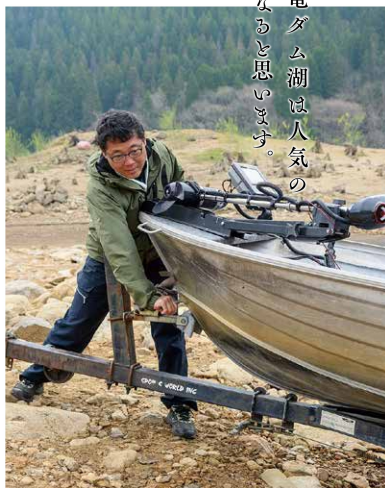


フィッシングガイド 藤原 秀揮 さん (移住歴4年)

岡山県出身。九頭竜ダム湖に拠点を置くレンタルボート&フィッシングガイド「スポーツワールド」代表。奥越漁業協同組合とともに、周辺自然環境の保護、整備活動にも力を注ぐ。

「九頭竜レイクサイドモビレージ」近くに拠点を置く「スポーツワールド」。奥越漁業協同組合発行の雑魚遊漁証の販売も行っている

美しい九頭竜ダム湖は人気のフィールドになると思っています。



近年のアウトドアブームで九頭竜ダム湖では、釣りだけでなく、ハワイ生まれのマリンスポーツSUPを楽しむ人の姿も
※SUP=Stand Up Paddleboard (スタンド アップパドルボート)

スポーツとしてのフィッシングを通じ、
地域を盛り上げていきたいですね。

奈良県下北山村にある池原ダムと七色ダムで、レンタルボートとフィッシングガイドを行う傍らで、周辺の自然環境の保護などに力を注いできた藤原秀揮さんが和泉に移住したのは2018年の夏の終わり。きっかけは九頭竜川、大納川、石徹白川を管轄する福井県最奥の「奥越漁業協同組合」からの、「地域の自然資源である九頭竜ダム湖を活用して何かできないか?」という相談でした。

早速、和泉に車を走らせ、九頭竜ダム湖を視察。豊かな自然に囲まれたダム湖やそこに生息する魚類の種類に強く惹き寄せられ、移住を決心しました。

「実は釣りを楽しむ人は年々減り続けているんです。それは釣れない」という理由が大半を占めていて、釣り場の環境悪化が原因です。九頭竜ダム湖はゴミが少なく、地域に流れる溪流も美しい。ここは本当にポテンシャルの高い土地です」

和泉での生活も今年で5年目。九頭竜ダム湖に拠点を置くレンタルボートとフィッシングガイドもようやく順調に。

「和泉での生活は楽しいですね。ただ、移住を決めてからの一番の課題が住まいでした。この町は移住先のリストに加えてもいいほど人も自然も魅力がいっぱいです。だからこそこの課題をクリアすることは、とても重要だと考えています」